

研究No.
(記載不要)

— —

平成 23 年度配分 研究成果の概要

研究名	インダストリアルデザイン教育の新展開に関する研究				
特別研究費 配分額	デザイン研究科長特別研究費				900千円
特別研究費 執行額	897千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	デザイン学部	生産造形学科	教授	黒田 宏治	研究総括・調査検討
共同 研究者	デザイン学部	生産造形学科	教授	佐井 国夫	研究推進・調査検討
	デザイン学部	生産造形学科	教授	磯村 克郎	研究推進・調査検討
	デザイン学部	生産造形学科	名誉 教授	伊坂 正人	研究助言・情報提供
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要		号 数	第 13 号 (2013年3月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	

注:配分を受けた翌年度の7月末までに提出

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成23年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	インダストリアルデザイン教育の新展開に関する研究				
配分を受けた特別研究費	デザイン研究科長 特別研究費				900 千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究者
	デザイン学部	生産造形学科	教授	黒田 宏治	他 3名
発表の方法	1 紀 要 名 称: インダストリアルデザイン教育の新展開に向けて			号 数	第 14 号 (121 頁~123 頁) (2014年 3月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法:			発表日	平成 年 月 日

※ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

※ 配分を受けた翌年度の3月末までに提出

(研究の目的等)

実践的学問領域であるインダストリアルデザイン(ID)教育の充実を図っていくためには、実社会(産業界等)の「生きた」情報の教育現場への導入、さらにはデザインビジネス最前線との連携が、あるいは地域社会との連携も、重要な課題である。

そもそもIDは、インダストリー(産業)のデザインに端を発する領域であり、社会的課題や企業の戦略的課題等に対応して立体・平面・空間さらにはハード・ソフトなどを領域の総合化が期待され、近年そのような社会的要請の一層の高まりが見られるところである。また日本国内にあってはデザイナー数が過飽和状況であり、国際的には中国等の台頭著しいなか日本IDのアイデンティティ構築ないし戦略的サバイバルも模索されるなか、ID分野の高度実践型教育の構築に向けた取り組みに着手すべき時期を迎えていると考えられるところである。

そこで本研究では、そのようなID教育研究の置かれた現状認識を踏まえ、IDビジネス最前線の専門家も交えた研究会を設置して、ID分野の実務動向を概観するとともに、いま求められるデザイン人材ニーズを明らかにし、本学ID教育の教育プログラム構築の契機とすることとした。

(研究の実施方法等)

本研究では、IDビジネス最前線の専門家も交えた研究会を設置して、ID分野の実務動向を概観するとともに、いま求められるデザイン人材ニーズについて検討した。

■静岡文化芸術大学ID教育研究会

- ・委員 田中一雄((株)GK デザイン機構 代表取締役社長)
藤本清春((株)GK ダイナミックス 道具文化研究所 所長)
清水尚哉((株)GK ダイナミックス 道具文化研究所 部長)
黒田宏治(静岡文化芸術大学 教授)
佐井国夫(静岡文化芸術大学 教授)
磯村克郎(静岡文化芸術大学 准教授)
- ・開催 第1回 平成23年9月21日(水)
第2回 平成23年10月7日(金)
第3回 平成23年11月11日(金)
第4回 平成23年12月9日(金)
- ・備考 委員の所属・役職は研究会当時のものである。
2~4回については特別委員招聘により報告・討議を行った。

(得られた成果等)

IDビジネス最前線の専門家も交えた研究会を設置して、ID分野の実務動向を概観するとともに、いま求められるデザイン人材ニーズに関する調査を行った。デザイン実務者からは、日本のデザイン学生はマニュアル指向、雑貨指向が強く、社会的な視点に欠ける、教養教育の減少で大学の画一化が進んでいると指摘された。また、実務現場では領域総合化の傾向があるとともに、基礎力に加え、発想力、幅広い知識、コミュニケーション力などが重視されているようだ。